

平成 19 年度 河川整備基金助成事業

川と水にかかわる「まつり」
報 告 書

平成 20 年 5 月

彩 の 川 研 究 会

はじめに

この報告書は、平成 18 年・19 年度の 2 ヶ年にわたって彩の川研究会が実施した「川と水にかかわるまつり」調査の結果をとりまとめたものである。

当初は、川の中で水しぶきをあげる神輿の光景をまつりのイメージとしていたが、この調査を始めてみるとその対象はあまりにも多岐にわたることがわかった。

まず、テーマの「まつり」については、漢字で「祀り」と「祭り」の二つがある。いずれも神仏・祖先をまつり、その儀式をさすことや特定の日を選んで身を清め、供物をささげ祈願・感謝・慰霊を行うことをいう。

「祀り」は対象を神として崇め、一定の場所に安置する意味合いが強い。一方、「祭り」は神を祭る儀式と、それに伴って行われる神楽等の行事の総てをいい、明るいい心象がある。また、記念・祝賀・宣伝などのために行われる行事もある。これらの「まつり」は、古来より人々によって地域全体や個人間の意思の伝達にもちいられた。また、「まつり」は人々に生きがいを感じさせ、1 年間の大きな節目等として生活に密着したものであった。

川や水はとくに「まつり」と縁が深い。川や水は、平時には豊かな恵をもたらす一方で、洪水時や渇水時には悲惨な水害や旱魃をもたらし、人命や生活基盤そのものを奪い去ってしまう。このように、恵と災難をもたらす人知の及ばない川や水に対して、古くから感謝・畏敬・尊敬などの念を込めた行事や儀式が各地で行われてきた。

これらのことから、祀りと祭りを含めて埼玉県内の「川と水にかかわるまつり」と人々のかかわりについて、流域や地域の人々の川への関心や文化を改めて認識して、会員をはじめ多くの人々の河川文化への関心を高めることを目的に調査を実施した。

調査は、県内全域を対象に県土整備事務所管内を単位として会員による 6 つの調査班を編成して、平成 18 年度に地元自治体・教育委員会等の関係機関からの情報を得て文献・現地調査を行い、平成 19 年度にこれらの中から代表的な「まつり」を抽出して、視察や関係者からの聞き取り調査を行ってとりまとめた。

この調査の中心的役割を果たしてきた森康人幹事が、残念ながらこの調査報告書の完成目前に永眠された。謹んでご冥福をお祈りする。

なお、この調査にあたっては河川整備基金の助成を得ることができた。深謝する次第である。

彩の川研究会会長 小林 寿朗

目 次

第1編 川と水にかかわる「まつり」

第1章 調査概要	1
(1) 調査の目的と視点	1
(2) 調査の内容と方法	2
1) 調査の範囲と体制	2
2) 資料の収集と整理の方法	3
第2章 「まつり」の分類と特徴	4
(1) 「まつり」の主催者	4
(2) 「まつり」の目的	5
(3) 産業と「まつり」の関係	5
第3章 代表的な「まつり」	7
<洪水・水難除け>	
3-1. 香取・浅間神社の三匹の獅子舞	8
3-2. 坂戸の祭りとその底辺を考える	14
3-3. 獅子舞神楽・ササラ	26
<雨乞い・五穀豊穡>	
3-4. 脚折の雨乞い	32
3-5. 氷川神社の餅搗き踊り	38
3-6. 吉田椋神社の龍勢まつり	40
<禊ぎ・厄払い>	
3-7. 大宮氷川神社の橋上祭	43
3-8. 氷川女体神社の名越の袷えと御船祭	46
3-9. 八咫神社のまんぐり	50
3-10. 我野神社の川瀬祭り	54
3-11. 上・下阿久原地区のお精進	58
3-12. 秩父川瀬祭り	61
3-13. 八坂神社の茅の輪潜り	67
<舟運の安全等>	
3-14. 黒目川の伸銅業と金山信仰	70
3-15. 葛和田のあばれ神輿	73
3-16. 出来島のあばれ神輿	84

<新しいまつり>

3 - 17 . 長瀬船玉祭り	90
3 - 18 . 寄居玉淀水天宮祭	94
3 - 19 . 古利根川流灯祭り	98

<コラム>

1.氷川神社と雨乞い	102
2.雨乞いと雷電信仰	106

第2編 現地視察

第1章 龍勢まつり見学会	109
--------------	-----

第2章 河川施設等見学会	112
--------------	-----

巻末資料（県土整備事務所管内別のまつり調査表）

(1) さいたま・越谷	117
(2) 朝霞・川越	130
(3) 東松山・飯能	151
(4) 秩父・本庄	181
(5) 熊谷・行田	208
(6) 北本・杉戸	238

第1編 川と水にかかわる「まつり」

第2編 現地視察

巻末資料

(県土整備事務所管内別のまつり調査表)

編集後記

この報告書の編集は、森幹事を中心に調査部会のメンバーと調査班の班長が編集会議を開催してとりまとめた。残念ながら、この報告書の完成目前に森幹事が急逝されたので、木内幹事がその後を引き継いだ。森幹事のご冥福を謹んでお祈りします。

川と水にかかわる「まつり」には地域の歴史に刻み込まれた人々の思いが色濃く反映している。この報告書がその一端を伝えることができれば幸いである。

・編集会議メンバー

森 康人、前田猛彦、飯島敏之、尾花幸男、木内勝司、桑島弘治、武井靖吉、田中長光、保泉誠次、横倉輝夫

川と水にかかわる「まつり」報告書

平成 20 年 5 月発行

(社)日本河川協会 彩の川研究会

問合せ・事務局

TEL 048-647-5533

〒330-0856

埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-410-13

この調査は河川整備基金の助成で行った。